

## 教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 射水市立堀岡小学校・教諭・長谷川友紀
- 2 研修期間 令和元年9月15日(日)～令和元年9月23日(月) 9日間
- 3 調査研究課題 子供たち一人一人のよさを生かし、主体的・協働的に学びを深めていくための教育活動の在り方
- 4 研修機関等  
ドイツ：在デュッセルドルフ日本国総領事館、ザンクト・ペーター小学校  
アルブレヒト・デューラー専門学校、ゾーリングン博物館  
デュモン・リンデマン共同基幹学校  
デュッセルドルフ手工業会議所  
ベルギー：EU本部  
フランス：オルセー美術館、ルーブル美術館

### 5 研修の概要

#### (1) 在デュッセルドルフ日本国総領事館

儀正人総領事を表敬訪問し、ドイツの社会情勢、教育事情全般についてレクチャーを受けた。

デュッセルドルフ市は主要都市の中でも生活水準が高く、自家用車所有率も高い。よって、このことが教育水準の高さにも反映している。日系企業は400社以上あり、ニーズに対応した日本人学校もある。日本に帰国予定のある児童生徒は日本人学校へ通って日本語による指導を受け、帰国予定のない児童生徒は、地元の学校へ通い、ドイツ語による授業を受けている。

2002年以降、大型日本紹介行事「日本デー」が開催されており、日本とデュッセルドルフとの文化交流、経済シンポジウムが行われている。毎年約60～70万人が訪れ、親睦と交流を深めている。

#### (2) ザンクト・ペーター小学校

児童数約200名、教員15名の学校である。地域の特徴により保護者の仕事の都合上、児童の入れ替わりが激しい。またカトリック宗派学校であるが、あらゆる文化・宗教をもつ児童が歓迎されており、多様性を尊重することを大切にしている。難民の流入を背景にドイツ語が話せない児童が50名おり、週15時間のドイツ語授業を行っている。

初等教育で学んだことをベースに児童が将来を築いていくことができるよう、オープンな心構え、フレキシブル性、心身の健康を大切にしている。また、教師が中心となって授業を進めるのではなく、児童が自分で学習を進めていくことを目指した「自立学習」の促進を図っている。そうした中で、児童一人一人の得意なものを引き上げ、不得意なものと一緒に取り組んでいくことで、双方が伸びていくことを目指している。



#### (3) アルブレヒト・デューラー専門学校

在籍生徒数約4700名(うち毎日授業に参加するのは1500名)、教員140名の職業専門学校である。州最大規模の設備をもつ学校であり、①職業訓練前の準備コース②職業訓練③職業訓練後の専門技能の習得、3段階の学習過程を採用している。

様々な職業に就くこと、技を習得することを目指す生徒が集まってくるこの学校では、セオリー的な面の学習は校舎の中で講義を通して学び、実際の技術についての学習は企業や職人の下で学んでいる。義務教育機関であるため、①職業訓練前の準備コースでは授業料は無償である。また、職業訓練の期間に入ると生徒に企業から報酬が支払われており、生計を立てながらさらに学んでいくことができる制度が整備されている。

実習先は生徒自身が見付けてこななければならない。教師はそのための支援はするけれども、最終的に探してきて決定するのは生徒である。現在のドイツが抱えている問題の一つに、自分の希望や適性がよく分からない若者に、どうサポートしていったらよいかということがある。

#### (4) デュモン・リンデマン共同基幹学校

生徒数約 530 名、教員 30 名の学校である。生徒の 80%が移民家庭出身で国籍は 20 か国に上る。そのため、ドイツ語の補修プログラムを充実している。

初等教育後の 8 年生から受ける基幹学校でのプログラムは、①自分の可能性を知る②職業分野を知る③体験をする④選択をする、4 段階で構成されている。一人一人がもつ得意な分野、可能性を見極め、資質に合った職業へと導いている。

8 年生後期には職業センターで実習を行う。10 業種から選べるようになっており、マイスターの資格が得られる場所に行き実際に経験をするということは、生徒にとって有意義なことである。9 年生、10 年生になると長期間の実習も取り入れられ、生徒自身が将来や就きたい職業の進路を定めていけるようになっている。しかし、何か問題が起こった場合やまだ就労先が定まらない場合等は、両親同伴でコンサルティングを受けることがある。このコンサルティングは、職業安定所や労働福祉協会などの機関が行っている。



#### (5) デュッセルドルフ手工業会議所

ドイツの手工業分野で事業を起こすために必要な資格制度(マイスター)を総括する手工業会議所は、各職種の資格認定試験を行う場である。また、職人の仲介、職業訓練所の仲介、職業訓練の場の提供等、役割は多岐に渡る。

ドイツで自営をする場合はこの会議所の会員になることが必須とされており、事業主の権利や利益を守る組織として認識されている。現代では後継者不足問題にも直面しており、その解決を目指し、歴史あるドイツの手工業分野の維持に努めている。

また、手工業会議所の大きな役割の一つに事業主に対するコンサルティングを無償で行っていることが挙げられる。事業を起こす際はもちろん、経営上の悩み、資金面や技術面の相談に至るまで年間 2 万件以上受けている。ノルトライン・ヴェストファーレン州、連邦政府からコンサルティング料の補助を受けており、これらの補助金と会員費とで充実したコンサルタントを行うことができる。

学校と提携した人材育成に関して制度が確立されている。どの業種に向けた資質の生徒が、どの学校にいるかを捉えて連携を図ったりミーティングの機会を設けたりしている。また、手工業会議所独自のアカデミーも兼ね備えている。これは実習・講義・経営術・教育の四つの部門によって構成されており、ドイツの職業教育制度において重要な役割を果たしている。

#### (6) 研修を終えて

子供たちが主体的・協働的に学びを深めていくための土台となる「自尊感情」であるが、その醸成のために、私が教員としてどう関わっていけばよいかについてヒントを得ることができた。一つ目は個々の違いをありのまま受け止め、よさを見つけるまなざしをもつことである。子供に対して「あれはだめ、これもだめ」と注意や指導をすることがどうしても多くなり、いざ子供によさを伝える際に、言葉に本当の温かさも乗せられないことがある。長年かけて私の中に刷り込まれた「こうあらねばならない」「こうあってほしい」という意識を変えるべきところは変え、私の言葉、表情、態度、全てを使って、子供のよさを捉え、伝えていく必要があると感じた。二つ目は学び方や目標を選択可能、変更可能にできるように柔軟な環境作りをすることである。それには同時に柔軟な教師の受け止め方が必要になってくる。子供の実態や特性を日々把握し、意欲的に学べる課題づくり、最後までやり遂げられる手立てを、柔らかな発想で構築していきたい。

また、ドイツの特徴である複線型教育の実態と職業訓練の現状を視察したことを通して、教育において、一人一人の実態や資質を把握すること、リアリティーのある目標設定を行うこと、子供自身が自己決定することの大切さを学ぶことができた。私の携わる小学校教育にも大いに生かせる点である。視察での経験と学びを、目の前にいる子供たち一人一人に還元していくとともに、教員としての自分、一人の人間としての自分を高めていきたいと考えている。

このような貴重な経験をさせていただいた富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会の皆様に感謝申し上げます。